日本民家園　花便り８月号（1）

～暮らしと植物～

トロロアオイ　　黄蜀葵　　江向家畑

根から抽出される粘液(ネリ)には、紙すきの際にコウゾなどの植物繊維を均一に分散させる大切な役割があります。このネリは腐りやすいので、紙すきは冬の気温が低い時期に行われます。花は花オクラと呼ばれ食用です。

ワレモコウ　　吾亦紅・吾木香　　江向家畑ほか

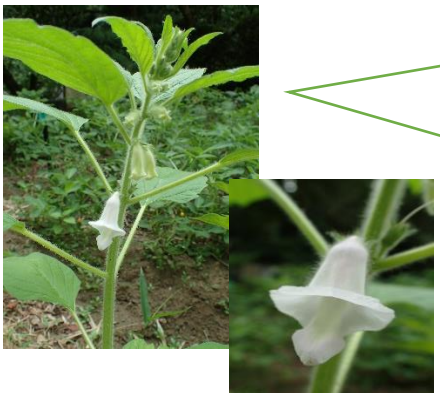
学名「Sanguisorba officinalis」は、ラテン語で「血を吸収する薬」という意味。古くから海外でも止血効果が認められていたようです。日本でも地楡(ちゆ)という生薬です。

ヤブミョウガ・ミョウガ　藪茗荷・茗荷　江向家畑

よく似た葉ですが、一つは茎の先端に花をつけるヤブミョウガ（写真左下）、もう一方は地下茎の先端に花をつけるミョウガ（写真右下）です。ヤブミョウガは若芽、ミョウガは花が食用です。

サルスベリ　　百日紅　　作田家

「百日紅(ヒャクジツコウ)」の名が示すように、開花期が長い植物。平等院鳳凰堂の阿字池の堆積土から庭園樹木の花粉と共にサルスベリの花粉も検出されました。平安時代には観賞用に植栽されていたようです。



ゴマ　　胡麻　　北村家畑

世界の文明発祥地でゴマ栽培が行われていた痕跡が見つかっています。日本でも縄文時代の遺跡からゴマの種子が出土しているそうです。それ以来、ゴマは油や食品や薬として重宝されてきました。